

『田中志津全作品集』刊行に寄せて

このたび『田中志津全作品集』刊行に当りましては、深い感慨の念を禁じ得ません。

第一稿集の「信濃川」そして「遠い海鳴りの町」「冬吠え」「佐渡金山を彩った人々」と、いずれもが絶版となり、目の見ることがないと思っておりました。

これらの一連の作品は、私自身の分身であり、子供であり、命、そして宝物でございます。

以前より、友人、知人や各方面の方々からは是非を読んでみたいという声が私の許へ寄せられていました。しかし手元には数冊の本しか残っておらず、図書館で読んで頂くしか術もございませんでした。私は復刻版も検討しましたが、むしろ全作品集としてまとめることにより、私の作品の全容を明らかにすることができないのではないかと考えました。

既刊本の小説を一部修正、加筆致しました。また、随筆日記「雑草の息吹き」、「佐渡金山の町の人々」も挿入。新聞掲載記事及び雑誌等に発表された随筆、新たに執筆した散文。以前詠んだ短歌と最近の短歌なども合せて収載させて頂きました。

平成二十五年一月二十日、九十六歳となる私にとっては、この全作品集は、人生の総括としての一冊であることに間違いございません。

私の文学碑（佐渡金山顕彰碑及び小千谷生誕の碑）をご覧頂き、作品に興味を持たれた方々や、新たな読者層の皆様方に、この全作品集が微力乍らお役に立てれば、身に余る光栄でございます。

平成二十三年、娘の詩人・エッセイストである故田中佐知が『田中佐知全作品集』を「思潮社」より刊行致しました。この度、親子揃っての全集刊行が完成出来ることへの慶びをたいへん嬉しく思っております。

2

全作品集刊行に当りましては、初出誌関係各位の皆様方や、新聞各社の方々のご協力並びに武蔵野書院・院主前田智彦様、編集部梶原幸恵女史のご協力を得ましたことを心より感謝申し上げます。

平成二十四年四月吉日 避難先の東京中野にて

田中志津

目次

【上巻】

『田中志津全作品集』刊行に寄せて 1

※上巻に別冊葉付き（執筆者 志茂田景樹・古田陽久・橋本博文）

小説「信濃川」（昭和四十六年十二月二十日） 7

第一章 川波 9

第二章 流れる 42

第三章 淵 69

第四章 氾濫 95

第五章 岸辺へ 119

あとがき 139

「信濃川」——書評 141

小説「遠い海鳴りの町」（昭和五十二年十一月三十日） 147

第一章 旅立ち 149 / 石扣町の家 153

第二章 充たされた日々 161

第三章 島の学校 172

第四章 佐渡金山の無宿者たち 183 / 佐渡金銀山の発見 187 / 町名の由来 189 / 言葉と方言 190 / 大久保石見守長安 191 / 切支丹キリシタンと鉱山の関係 193 / 明治維新後の佐渡鉱山 194 / 相川の暴動 196 / 御料局民間へ払下げ 198

第五章 佐渡鉱山入社 200

第六章 海色うみいろ 217 / 氏子祭り 219 / 鉱山まつり 220 / おんदैいこ 229

第七章 父の死 231

第八章 早春の譜 244

第九章 町の往きかい 261

第十章 日支事変 270

第十一章 ある惜別 277

あとがき 298

「遠い海鳴りの町」——書評 299

随筆 昭和編 301

【中巻】

小説 「冬 吠え」 (平成三年一月二十日) 3

第一章 帰郷 5

第二章 燻り火いぶき 34

第三章 冬吠え 91

あとがき 176

「冬 吠え」——書評 177

小説 「佐渡金山を彩った人々」 (平成十三年七月十五日) 181

第一章 船出 183 / 石扣町の家 187 / 陽光と影 191 / 島の女学校 198

第二章 無宿者と遊女たち 208 / 佐渡金銀山の発見と徳川家康 212 / 家康と大久保石見守長安 213 / 切支丹と金山の関係 214 / 明治維新後の佐渡金山 215 / 御料局民間へ払下げ 216 / 言葉と方言 217

第三章 佐渡金山入社 219 / 海色うみいろ 233 / 鉱山まつり 234 / 「相川音頭」と「若浪会」 241 / 氏子まつり 242 / おんदैいこ 243 / 春駒 244

第四章 父の死 246 / 駆け急ぐ群像 256

第五章 夫婦の軌道 264

第六章 佐渡金山大縮小の譜 269 / 早春のかげろい 273

第七章 現場技師との出会い 285

第八章 日中戦争 303 / 女の戦場 312 / 疎開先で迎えた終戦 319 / 撃沈された大洋丸 321

第九章 三十八年ぶりのクラス会 325 / 想い出の技師たち 327 / 海鳴会かみめい 335

あとがき 340

「佐渡金山を彩った人々」——書評 343

【下巻】

随筆 日記 「雑草の息吹き」 3

随筆 「佐渡金山の町の人々」 (平成二年八月十五日) 137

書簡集 139

クラス会、女の戦場、石扣町の隣人 147

想出の技師たち 157

海鳴会 165

東京相川会 172

あながき 177

随筆 平成編 179

短歌 225 / 書簡 挨拶文 253 / 掲載記事 277 / 写真 307

田中志津年譜 317

流転の人生の暁に——作家 田中志津 …………… 田中行明 347